

大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）  
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F14531011565	設置者組織名	経営学部経営情報学科（仮称）
大学名	宮崎産業経営大学	設置区分	私立	事業計画名	大学・高専機能強化支援事業
学校種	大学	都道府県	宮崎県		

1. フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
フェーズ1	<p>R5 既存経営学内に経営情報学科（仮称）を設置し情報工系の学位を授与できる設置申請を行う計画。</p> <p>①前期 学内のコンセンサスを取るため、学長をリーダーとしたプロジェクトチームの設置を行う。</p> <p>②新学科の建物（4号館）の改築・増築建設に伴う施設設備の計画及び見積、設計準備</p> <p>③SASなどマーケティングのデジタル化（統計学など）の設備やカリキュラムの精算</p>	<p>①令和5年10月、学科新設検討委員会の設置済み。</p> <p>②令和6年1月より本学内の4号館の耐震などの調査を行い改築か新築（建替え）の検討で学内調整中。令和5年度で精算はできなかったが、設計事務所との調整は進行中で、令和6年度早々に精算、設計を完了し建築の準備を行なっていく。</p> <p>③既に専門演習Ⅰ及びⅡ（日高）において、令和5年9月の後期講義から、SASを活用し、デジタルマーケティング戦略の開発と実践について取組がスタートしている。また、令和6年3月、愛媛生6名について、SAS社と本学の共同認定資格証明書（SASを活用しマーケティング分析を習得し、その能力を構築する知識スキルを認定）交付した。さらに、本取組は、先進性かつ独自の新しいデジタル教育としてSAS社から高く評価されアジア・パシフィック地域内で表彰された。</p>	<p>R5年度自己評価</p> <p>【4】計画を上回って実施している。</p>
	<p>R6 ①県内の大学、企業との連携に伴う交渉・教員の確保の準備（コンサルとの調整）</p> <p>②本学園の中学・高校を営む県内高校などのニーズ調査</p> <p>③設置申請における作業</p> <p>R7 ①設置申請（教員、カリキュラムの完成）</p> <p>②教員との契約準備（専任、クロスアポイント、非常勤）</p>		<p>○年度自己評価</p> <p>リストから選択してください。</p>
フェーズ2前期			<p>○年度自己評価</p> <p>リストから選択してください。</p>
認可申請又は編出	令和8年12月経営学部経営情報学科（仮称）認可申請予定		
フェーズ1後編			<p>○年度自己評価</p> <p>リストから選択してください。</p>
フェーズ2	<p>設置申請後認可を受けた場合、施設設備の工事開始。</p> <p>R8 年度中の完成を目指す。</p> <p>①教員との契約（専任、クロスアポイント、非常勤）</p> <p>②高校への広報活動（パンフレット配布、TVCM、Webなどの公開）</p> <p>③工学系入試準備（入学生験内容、募集要項など）</p> <p>④本学の経営情報学科と連携できる企業、自治体とのコンソーシアムなどの設置準備（企業や自治体のニーズを把握し、カリキュラムに取り入れる準備や就職活動に活用できる準備を行う）</p>		<p>○年度自己評価</p> <p>リストから選択してください。</p>
開設又は定員増	令和9年4月経営学部経営情報学科（仮称）開設（入学定員40名、編入学定員若干名、工学関係）		
フェーズ2後編			<p>○年度自己評価</p> <p>リストから選択してください。</p>
フェーズ3	<p>令和9年度より新規入学者（第1期生）の授業開始</p> <p>R9 ①工学系学科におけるFD委員会の設置と部会の設定（外部工学系大学教員の招聘）</p> <p>②次年度入学者へのPR活動</p> <p>R10 ①就職先への広報活動、調査（連携先企業、自治体）</p> <p>②海外大学との連携準備（県内大学との連携）</p> <p>R11 ①経営情報系の就職先選定活動</p> <p>②工学系論文評価基準の設定</p> <p>R12 ①第1期生卒業準備</p> <p>②本事業の成果総括及び修正作業</p>		<p>○年度自己評価</p> <p>リストから選択してください。</p>
定員減又は学部等の廃止	令和8年12月経営学部経営情報学科（仮称）40人減員に関する編出（入学定員40名、編入学定員若干名）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	宮崎産業経営大学
-------------	-------	-----	----------

**2.申請資格の確認**

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

**3.申請要件の取組状況**

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

<p>① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。</p> <p>確認を受けている <input checked="" type="checkbox"/> チェック 確認の対象に該当しない <input type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>⑦ 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>⑨ 事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）</p> <p>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	
<p>⑬ フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。</p> <p>計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック</p>	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	宮崎産業経営大学
-------------	-------	-----	----------

②	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
③	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）に基づき機構が実施する会議に参加すること。	
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
④	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

#### 4. 審査項目における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

##### 【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a. 企業や自治体と連携した科目（PBL）の整備・実施について、既にネットワーク関係にある自治体および企業（日向市、高千穂町、宮崎商工会議所など）との濃密なコミュニケーションを重ね、データの分析・活用しそれを踏まえた課題解決策を提案しその新規性などを議論する。 b. 大学と自治体・企業との協働的取り組みが、「データドリブン経営実務実習」の手法として妥当かどうか検証を行う。次に、関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施については、地元国立大学工学部との協議を踏まえ、大学間連携（大学の教育理念を踏まえたカリキュラム全体構造における単位互換について）の可能性について検討し、その具体化に向けて努力する。 c. 海外大学との連携（グラム大学、ポンド大学など）についてはこれまで積極的ではなかったが、今後は県内の先行する大学と連携することにより海外留学についても積極的に取り組んでいく予定。	a. 宮崎市商業労働課と本学学生とのコラボレーションスタイルの起業家セミナーを令和6年6月17日からスタートすることになっている。このセミナーでは、マーケティングデータを踏まえた事業計画書の作成から起業の実現を目標としている。この実習を通じて、起業家教育におけるデジタル教育手法の構造と内容について検証を行う。 b. 宮崎大学、南九州大学との協議を重ね、企業経営者を対象として、リカレント教育を目的とする実践的DX講座を開催（令和6年11月）することになっている。この講座を通じて、連携の構造、内容、今後の方向性について検証していきたい。 c. ポンド大学に加え、令和6年度中に、クワイストチャーチ工科大学（ニュージーランド）、ダブリンシティ大学（アイルランド）との語学留学プログラム締結を完了し、グローバル化の拡充を図ることとなっている。	

##### 【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受け入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受け入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
a. 入学選抜における科目の見直しについては、新設学科（経営情報学科）の試験科目として「数学」を新たに組み込む。 b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取り組みは、高校生女子を対象とする女性目標によるビジネスプランコンテストを主催する。 c. 地域の初等中等教育段階の学校の連携については、AIの活用法、プログラミング実習、行動経済学などの出張講義を通じて、「創造力」の育成に貢献する。また体験入学の開催も検討したい。 d. 社会人学生の受け入れ強化に向けた取り組みについては、デジタルツールを活用し自らの課題を発見・解決しうる「社内のDWRリーダー育成講座」、連携企業に対しては「リスキリング講座」を無料で開講する。 e. 留学生の受け入れ強化に向けた取り組みは、ASEAN諸国において日本進出を狙う企業と濃密なコミュニケーションをとりながら、受け入れ国の絞り込みを検討したい。	a. 委員会にて「数学」の組み込みについて検討中。 b. ビジネスプランコンテスト開催要領等（尚書と課題）について、毎年ビジネスプランコンテストを主催している宮崎大学にてアング中。また協賛企業や団体の要請を依頼中。 c. 令和5年6月および7月の2回、小学生・中学生を対象とする本学主催のプログラミング講習を開催（参加者は合計で23名）。 d. 文科省の補助金をいただき、宮崎大学、南九州大学と共同で、社会人（企業経営者）を対象とするDX教育（リカレント教育）を令和6年11月に開催予定。 e. 現在、株式会社宮崎県ソフトウェアセンターと情報共有しながら、受け入れ可能な企業について絞り込みを検討中。	







大学名	宮崎産業経営大学
-----	----------

### 3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	200	200																		
		入学者数	人	245	240																		
	その他の学期	入学定員	人	0	0																		
		入学者数	人	0	0																		
	入学者合計	入学定員(A)	人	200	200																		
		入学者数(B)	人	245	240																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.23	1.20																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	800	800																		
		編入学定員	人	0	0																		
		在籍者数(D)	人	996	969																		
		編入学者数	人	0	0																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.25	1.21																		

### 4.外部資金の状況（全学）

年度			H31年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	
改組状況			選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定-1年	選定				開設										
項目	単位																					
外部資金獲得額	千円		6,971	6,880	3,630	1,160	3,967	5,380														

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間に於ける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	4,826
本事業による助成金の額(F)	千円	459,200
フェーズ3の助成期間終了時まで達成する額(E+F×2.5%)	千円	16,306

#### 特記事項

令和5年度および令和6年度における編入学定員の0は、若干名を意味している。



大学名	宮崎産業経営大学
-----	----------

### 3.大学（学士課程）の状況

#### <合計>

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学状況	入学者数等	入学定員(A)	人	200	200																		
		入学志願者数(B)	人	275	269																		
		受験者数	人	275	268																		
		合格者数	人	223	225																		
		入学者数	人	245	240																		
		志願倍率(B/A)	倍	1.38	1.35																		

#### 特記事項

--

